令和六年度　香川県立文書館古文書解読講座　応用編　資料釈文

# 徳田家文書『廻文留』を読む

講師　田中健二

表記に際して

・行替は　」で示した。また平出はそのまま、闕字は一字アキで示した。
・本文に適宜、句読点、並列点を施し、理解の便を図った。
・字体はそのままにしたが、異体字については常用漢字に改めたものもある。字がないものについては■で示した。
・変体仮名はそのままとし、読みをルビで示した。
・田中による注記は（　）で示した。

「四　廻文記」

○明治二（一八六九）己巳年正月ヨリ記

（中略）

以廻文申達候。然ハ別紙之通、参政（サンゼイ）・監察（カンサツ）中ゟ觸在之候間、左様御心得」、刻付ヲ以、急々御順達留分ゟ御戻可在候。以上。」

正月十七日」

大久保勝太夫」

宮武小膳様
福家辰三郎様
山口友太様
中條勝次郎様
新名助右衛門様
香西加藤兵衛様　正月十八日辰上刻相達」申上刻順達仕候。」
苧坂喜傳次様

水原盛之助様
古川　斎様
植松彦太夫様　正月十八日申上刻相達」同十九日巳上刻順達仕候。」
宮井傳左衛門様
横田次郎七様
高木鎮吾様
徳田達蔵様　正月十九日午中刻ニ相達」未ノ上刻ニ順達仕候。」
宮武才兵衛様
上田沢右衛門様
片山速太様
三木求左衛門様
〆
次第不同

「三　廻文留」

○是ヨリ慶応二(一八六六)寅年

御家中組外之面々」

列壱人」

此度、別紙之通、町郷中江(え)も申渡。御家中之面々右様之義ハ在之間敷」候得(え)共、家々之者共、心違(得脱カ)無之様、訖度可被申付候。」

但右之趣御同役御同列中へも」御傳達可被成候。」

町奉行」
郡奉行」

此度、於他所冨ニ似寄候興行等在之由、他所冨札賣買不相成段、」別紙之通文化・天保之度申渡置候間、賣買致候筈ハ無之候得共、万一心得」違抜ニ罷越、右冨買取賣買致候族も在之候ハヽ、早速召捕咎方可申付。」幷ニ其所之町村役人共、可為越度候間、兼而其旨相心得罷在旨、不洩様」訖度可申渡候。」

文化十四年十二月二日」

町奉行」

作州於津山、冨興行在之由、依之町方之者共抜ニ彼地へ罷越、右」冨札買取、賣買致候者も在之段、相聞候ハヽ、本人ハ勿論町役人共も」訖度咎方申付候間、其旨相心得、不洩様可申渡候。」

郡奉行」

右同文言。依之御領分之者共ー一本人ハ勿論村役人共も右之外ハ」同断右略候。」

天保六未年十二月十六日」

町郷中之者共之内他所冨札賣買致候由相聞候。他所冨札」賣買不相成候段、文化十四丑年別紙之通申渡候所、又候右之」次第。畢竟役人共申付方緩成故之義与相見、不届之至ニ付」人別相糺候上、訖度咎方可申付筈ニ候得共、全風聞之義」ニ付、不及其沙汰候。以後弥丑年申渡候通相心得、端々迚不洩」様可被申渡候。」

別紙之趣、左様御心得可在之候。以上。」

二月四日」

徳田達蔵様」

宮武才兵衛様」

上田澤左衛門様」（右の誤り カ）

奴賀進之丞様」

漆原千賀之助様」

真鍋五郎様」

〆」

此節、町郷中共浮浪体ニ紛連（れ）、致徘徊候者茂（も）在之哉ニ相聞」候間、怪敷者与（と）見請候ハヽ召捕可申候。若手向致候ハヽ無用捨」討取可申。廻り之者江（え）申渡候。御家中之面々右様之義者（は）、」無之筈ニ候得（え）共、家来〳〵自然心得違之者も在之候ハヽ、主人」之可為越度候間、為心得相達候。右之通年寄中被仰候間、」被得其意、組中・与力中・支配幷手代・足軽等ニ至迄支配方ゟ」可被仰渡候。尤御同役・御同列中へも夫々ゟ可被仰通候。以上。」

七月廿六日　　横目中」

別紙之趣、左様御心得幷御同列中江茂（えも）御順達可在候。以上。」

七月廿八日　　篠原市左衛門」

夫々名当」

御家中組外之面々」

列壱人」

志摩殿(松平頼利)御舎弟哲松殿(頼讃)事、此度御同人養子ニ被致候。右ニ付、」於途中時宜合之義、志摩殿同様被仰出候。此段為」心得申聞置可然旨年寄中御申ニ候。」

但シ右之趣、同役・同列中へ申通、組支配江(え)も」

可申渡候。」

七月廿七日

別紙之趣、夫々左様御心得可在候。以上。」

七月晦日　近藤正大夫」

篠原市左衛門」

徳田達蔵様」

宮武才兵衛様」

上田澤右衛門様」

尚々、御順達被下、廻り留り之御方ゟ御戻し可被下候。以上。」

## 「四　廻文記」

○明治(一八六九)二己巳年正月ヨリ記

此度御一新之折柄ニ付、軽輩之面々、足駄(アシダ)見免候義、別紙之通、被　仰出候間、」左様相心得、若此度被仰出候趣、相背居申者も在之候ハヽ、是迚高足同様」相心得、相咎其筋へ可申出候。」

十二月廿三日

（頭書朱書）「知事様ゟ仰付之書付写、此所へ封込在之候。」

御家中男子之分、是迄日照（テリ）手傘不相成候得（え）共、向後勝手次第之事、

但御見（目カ）見以下百姓町（人脱カ）ニ到迄、男子之分不相成候。

一軽輩之面々戎服（フク）金物・角又ハ水牛・鯨（クシラ）限る（へ）遍し。右品之外決而不相成候。

服

諸手代

坊主類

右ハ是迄足駄（ハキ）履往来不相成候得（え）共、向後見免候。乍去丸形椶櫚（シユロ）竹（ソウリヨ）之」皮花緒（ヲ）ニかきるべし。角下駄先掛、右花緒之外決而不相成候。尤御家中」之面々通違之節失礼無之様可致候。

足軽以下

中間類

右同断相心得可申候。尤御家中之面々通違之節、横へ寄、花緒ヲ脱（ヌギ）、慇懃（インギン）ニ」致會釈（エシヤク）通抜（ヌケ）候上、通行可致候。尤御用之節ハ是迄之通相心得可申候。」

百姓

町人

右同断相心得可申候。尤御家中之面々通リ違之節、右同断相心得可申候。」

右之通見免候上ハ、右之趣相背ニおゐてハ、厳重咎可申付候。其頭々迄も」落度たるへく候間、御家中江（え）對候無礼無之様、訖度可申付候。」

十二月廿三日

御家中面々

金銀貸借之義ニ付而ハ、度々申渡候次第も在之候所、近年町方小間者共へ」日

歩之致貸方高利ヲ貪リ、殊ニ指引向之義ニ付而ハ、非道卑劣之取扱」も在之哉ニ相聞、御家中之面々御扶持人等ハ別而心得も可在之筈候得共、此節」専名前ヲ指候風評も相聞、別而致別宅居候共之内ニハ、種々卑キ致取扱」候者も在之哉ニ相聞候ニ付、追々御取調も可相成候間、左様之次第於在之ハ、」急度被仰付候筈ニ付、其旨相心得、聊心得違無之様可被致候。」

一近頃料理屋等□おゐて酒宴など致候者も在之哉ニ相聞、当節柄不相弁」以之外之義ニ候。甚風儀不宜様相聞、如何成事ニ候。右酒宴等之義者、」先年ら度々相觸置候義ニ付、御家中之面々右様之義ハ在之間敷筈」ニ候得共、自然心得違之沙汰も相聞候ハヽ、相糺訖度被　仰候方も在之」候間、其旨相心得、風評ニ不預様可被致候。尤別紙之通、市尹へ申渡候間」左様御心得せ置可申候。」

十二月

是迄

御城内馬提灯・弓張挑灯とぼし往来不相成候得共」

御一新之折柄ニ付、向後不苦候。」

十二月

（中略）

闔トビラ

正月十一日闔藩、末々迄御布告之寫

上士以下

諸向江

學政御一新ニ付、来ル十八日ゟ諸局御開業相成。年齢又ハ知行高ニ」應じ、出席日割其他規則等左之通被仰出候。尤旧冬御布告」相成候御主意、弥以奉躰認、無怠慢勉励可在之候事。」

十五歳ゟ三拾歳迄之子弟ニ至迄。」

一高弐百石以上壱ケ月日数十五日出席。」

一米五拾俵及拾五人扶持以上壱ケ月日数十二日出席。」

一右以下諸士壱ケ月日数十日出席。」

但右夫々定日之外執心ニ而日々出席」候義ハ別而御感賞可有之候。并日勤」等ニ而格別繁劇之族ハ萬一闕日」候而も品ニ寄、御見免被下候義も可有之候。」

一三拾一歳ゟ四拾歳迄之輩、右夫々定日半■(減)之積り。」

但右同断。」

一四拾壱歳以上の輩定日無之。勝手次第罷出、學問之義理篤ト」相辨国家之御為可心掛候。」

一十五歳以下童蒙之輩、日割御定被遊候而ハ、却修行指支之事も」可有之候間、勝手次第ニ候得共、親ニ無懈怠相励せ可申候。」

一諸手代・坊主類等之子弟ニ至迄成器ニ循、拝謁以上耳御取立ニも」可相成候者ニ付、出席不苦候間、定日御極り無之候得共、其心得ヲ以相」励可申候。」

但右以下百姓・町人等ニ至迄格別執心ニ而罷出」修行致度族ハ願之上可罷出候。」

一日々□(出カ)席出入姓名木札相渡候間、其度毎都講江相届可申候。」

一稽古時毎朝五ツ時ゟ夕七ツ時迄。尤休日等之義ハ館中張り紙」面之通相心得

可申候。」

一句讀致度族ハ小學校江罷出、理學致度族ハ大與校江罷出可申候。」

但小學校ハ御造営不相成候ニ付、是迨之」習学場ヲ仮ニ被設置候。

一右之外、寄宿寮御建被遊、重臣世禄之輩不及申、諸士以上之子弟等」十八歳以上壮年之輩ハ壱月ツヽ輪番ヲ以、寄宿被仰付候。無怠慢」相励、別而重臣之子弟ハ往國家之大任ニも相當候義ニ付、下情ニ通し」難苦ニ堪、猶更勉励可致候。」

但別段執心ニ而寄宿致度輩ハ都講へ願出候ハヽ」人物ニ寄御聞届可被下候筈ニ候。右寄宿願之義」未御造営御成功不相成候ニ付、開業之義ハ」追而可相達候。」

一春秋御吟味之義ハ是迨之通ニ候得共、年齢ヲ限、或ハ部数□」貪り、却而実用を失ひ候弊風も不少候ニ付、右様之義ハ相改、」童蒙之族ハ引立方親々其心得ヲ以、相励せ可申候。依之、規則変」革之条件ハ其節都講江承り合可申候。」

一開成所之義ハ当分故鶴林寺ヲ仮ニ學校ニ被設候間、前條」日割之内ニ而時日を更、出席可致候。

一月並諸講釈是迨之通。尤有志之輩ハ貴賤無差別、」出席不苦候事。」

一詩文歌及諸礼諸會讀等、定日相立時々御催し相成候間、」有志之輩ハ可罷出候。」

但右之節、軽輩ハ勿論、百姓町人たり共出席」致度族ハ、其段、會頭へ相届可罷出候。」

一習學(ジュカク)之義も猶又御引立被遊度
御主意ニ付、是迄上輩之子弟ニ限り候得(え)共、軽輩」・坊主類迄ハ出席」
御見免被下候間、教授(キヤウジユフ)江申談(ダンジ)可罷出候。」
右條々、御確定相成(クワクシヤウ)候間、一藩末々迄不洩様、夫々ら」可被相達事。」
正月」
文官長」
以飛札申達候。然ハ別紙之通、觸在之候間、左様御心得」可在之候。」
正月十三日」
大久保勝太夫」
夫々名当」

追加資料

「三　廻文留」

今度、年号慶應与改元在之候由、江戸ら申来候。」
五月五日
横目中」
右之通、横目中ら之相觸申候。」
別紙之趣、左様御心得可在候。以上。」
五月
近藤正大夫」
徳田達蔵様」
宮武才兵衛様」

上田澤右衛門様」

殿様、天氣合ニ付、御乗船御延引被遊候所、御風氣ニ付、尚又御延引」御快方次第、　御乗船可被遊旨、被　仰出候。」

五月十七日

右之通、横目中ゟ達在之候。」

別紙之趣、左様御心得可在候。以上。」

五月十八日　　近藤正大夫」

徳田達蔵様」

宮武才兵衛様」

上田澤右衛門様」

上野祐太郎様」

奴賀進之丞様」

漆原千賀之助様」

真鍋五郎様」

〆